

令和7年度 研究概要

1 研究主題／副主題

どの子ども輝く生活科・総合的な学習の時間・社会科学習の追究
—対話の機能を生かした探究的・問題解決的な学習を仕組む—

2 研究主題について

○主題設定の理由

図1 本校の教育目標と研究教科の関わり

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次の通り育成していくことを目指す。

社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通りに育成することを目指す。

学校教育目標

未来を紡ぐ子ども

～よく学び 豊かな心を持ち
たくましく生きぬく児童の育成～

校訓

みんな

なかよく

みらいにむかって

本校では、平成23年度から28年度の2期6カ年に渡り、学習の基盤となる言語活動を充実させることが思考力・判断力・表現力の育成に効果的であると考え、「子供の思考力を高める言語活動のあり方」を主題として研究を進めてきた。その成果として、事実を根拠として、考えを言葉で表現する力が高まったこと、課題として互いの考えを意識して深める力が不足していることが明らかとなった。これを受け、児童一人一人が主体的に学習に参加し、自分や仲間の考えのよさを生かして協働的に問題解決をするための資質と能力の育成が必要と考え、「どの子ども輝く生活科・総合的な学習の時間・社会科学習の追究」という研究主題を設定した。令和7年度より研究教科に総合的な学習の時間を加えて、対話の機能を活かした授業づくりを追究していく。

3 研究副主題について

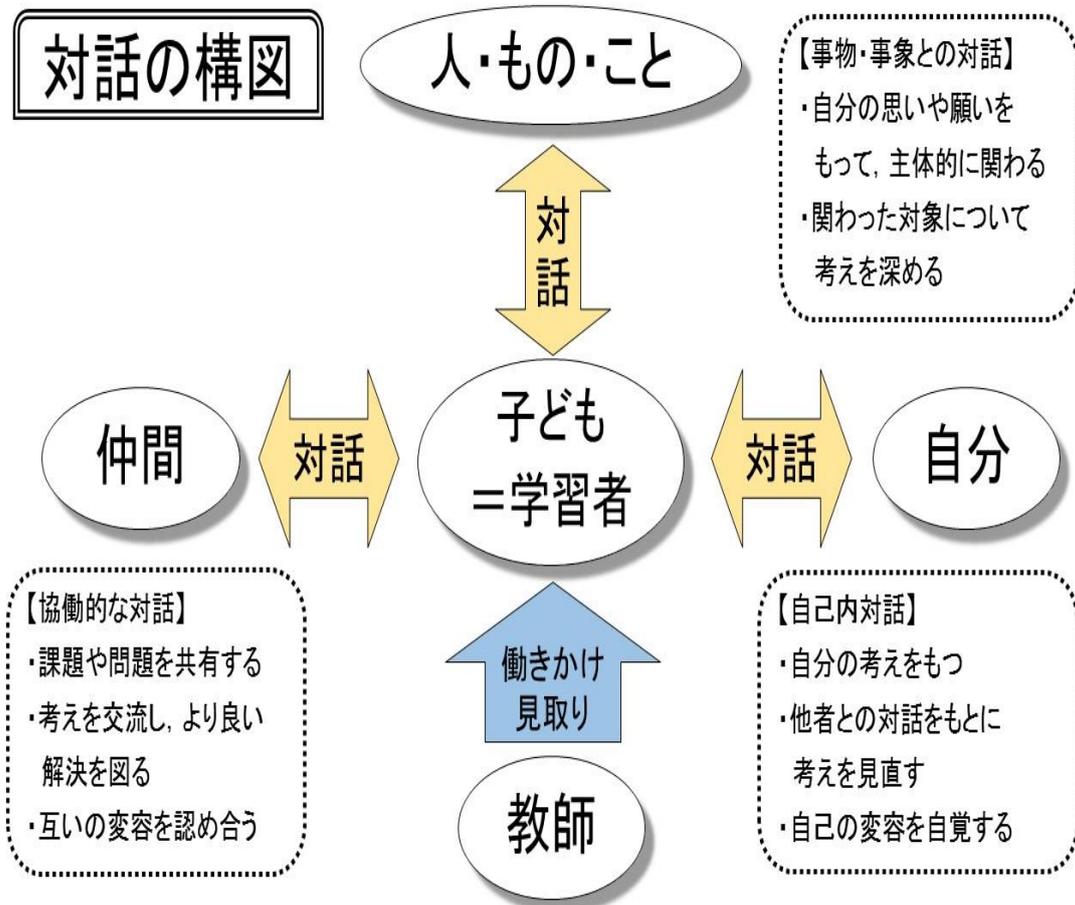
令和2年度より研究主題である「どの子ども輝く生活科・社会科学習の追究」を継続し、令和6年度より副主題を「対話の機能を生かした探究的・問題解決的な学習を仕組む」とした。

(1) 本校が定義する「対話」

教材・題材をもとに共有化された問いや課題に対して、多様な思いや考えをもった児童が、他者や自己と応答し合い、考えを深めていくこと

本校では、対話に3つの側面があると考え、その構図を次の図3のように捉えている。1つ目は、学習者である児童が、仲間とともに協働的に問題解決をしていく過程で行う仲間との対話である。2つ目は、学習者自身が解決の見通しをもち、自問自答しながら考えを見直していく自分との対話である。3つ目は、人（地域の人・先哲など）・もの・こととの関わりを通して生まれる対話である。児童は、課題の解決に向け試行錯誤を重ねながら、仲間との対話、自分との対話、人・もの・こととの対話を繰り返し、思考を深めていく。教師は、これらの働きを認識し、学習過程の中で個々の考えを繋げたり、揺さぶったりして児童に働きかけ、考えの深まりを見取り、フィードバックを行うことで児童の主体的な学びを支える役割を担う。

図3 対話の構図



(2) 探究的・問題解決的な学習の過程と対話との関わり

本校では、生活科・総合的な学習の時間・社会科における問題解決型・課題解決型学習の過程と、対話との関わりを以下のように整理している。

【生活科】

過 程	対 話 と の 関 わ り
① めあてをもつ	・直接体験を通して、自分の思いや願いをもつ。 【自分との対話】 ・「見たい」「聞きたい」「知りたい」という思いや願いを話し合い、共通の課題をもつ。 【仲間との対話】
② 関わる	・課題を解決するために「人・もの・こと」と関わる。【人・もの・こととの対話】 ・「人・もの・こと」との関わりを通して、自分なりの気づきや考えをもつ 【自分との対話】 ・「人・もの・こと」との関わりから得た気づきを伝え合う。【仲間との対話】
③ まとめる	・仲間との対話をもとに、自分自身の気づきのよさや成長を振り返る。 【自分との対話】

【社会科】

過 程	対 話 と の 関 わ り
① 問いをもつ	・社会的事象を観察して気付いたことを話し合い、解決すべき問いをもつ。 【仲間との対話】
② 見通しをもつ	・既習や経験をもとに自分なりに予想を立てる。 【自分との対話】 ・予想や解決の方法を磨き合い、解決への見通しをもつ。【仲間との対話】
③ 自力解決をする	・予想を確かめるために集めた情報を取捨選択する。【人・もの・こととの対話】 ・わかった事実から自分なりの考えをもつ。 【自分との対話】
④ 協働して解決する	・仲間と事実や考えを発表し合い、質問し合いながら、社会的事象の意味や因果関係について考える。 【仲間との対話】 ・様々な立場に分かれたり、視点を決めたりして、考えを話し合う。 【仲間との対話】
⑤ まとめる	・仲間との対話をもとに、自分の考えを振り返る。 【自分との対話】 ・自己の考えの変容を振り返り、深まりを自覚する。 【自分との対話】

【総合的な学習の時間】

過 程	対 話 と の 関 わ り
① 課題の設定をする	・日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付ける。【自分との対話】【人・もの・こととの対話】
② 情報の収集をする	・具体的な問題について情報を収集する。 【人・もの・こととの対話】
③ 情報を整理したり分析したりする	・集めた情報を整理・分析して問題・課題の解決に取り組む。 【人・もの・こととの対話】 ・集めた情報を知識や技能と結び付けて、問題・課題の解決に取り組む。 【人・もの・こととの対話】 ・考えを出し合ったりして問題・課題の解決に取り組む。【仲間との対話】
④ まとめ・表現する	・明らかになった考えや意見などをまとめる。 【自分との対話】 ・明らかになった考えや意見を表現する。 【仲間との対話】 ・様々な立場に分かれたり、視点を決めたりして、考えを話し合う。 【仲間との対話】 ・新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始める。【自分との対話】 ・自己の考えの変容を振り返り、深まりを自覚する。 【自分との対話】

4 研究の重点

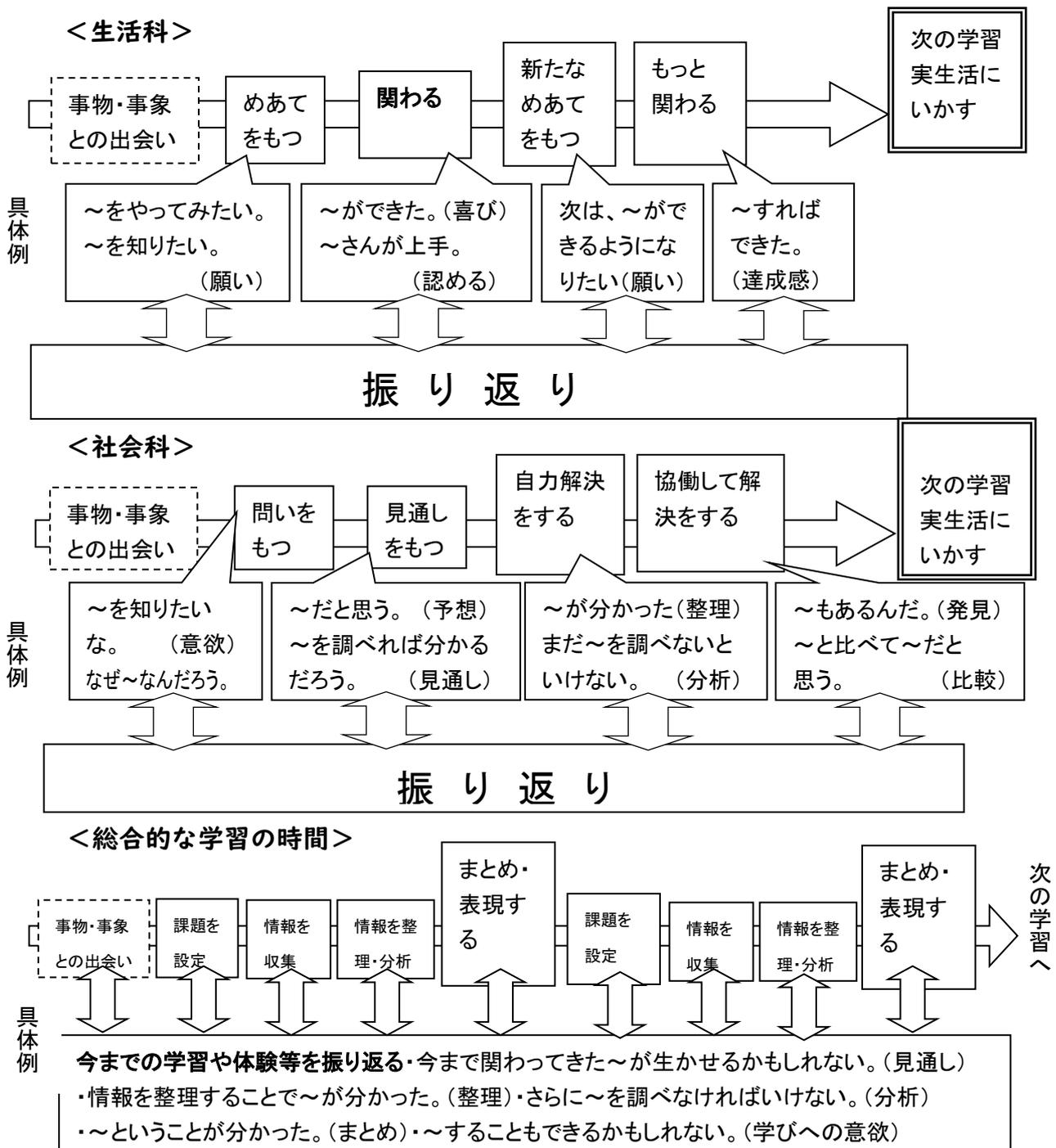
対話の中で振り返りを活用することで、深い学びにつなげる指導法を探る。

○振り返り（活動）について

本校では振り返り（活動）を次のように捉えている。

問いや課題に対して児童一人一人が考えている内容を書いたり、話したりするなどの方法で表出させるための手段。

図5 本校の考える各教科の振り返り活動のイメージ



振り返りは、教師が深い学びにつながるように意図的に設定することが必要である。一方で、児童が自ら学びを進めるためには、振り返りが必要だと感じられるようにすることも大切である。上記にある各々の学習過程において、振り返りの内容は変わってくるが、単元を通して振り返りを行うことで、児童一人一人の学びを深めたり、実生活に生かしたりすることができると思う。

○「振り返りを活用する」とは

本校で行う「対話」では、自分の考えをもちながらも、それを対話の中で表現できない児童や自分から発信をせずに受動的な参加のみに終始している児童もいる現状である。そこを打開し、より主体的な学習にしていくために、次のような場面での「振り返り」を想定している。

導入場面

これからの学習の展開について見通しをもたせるための「振り返り」

- ①既習や自分自身の生活経験と比較をする。
- ②「知りたい」「調べたい」という思いをもつ。

展開場面

活動の中で得たことを自覚し、知識や技能として根付かせるための「振り返り」

- ③既習と関連させて比べる
- ④自分の考えと他者の考えを比べる。

終末場面

発展学習や自己の達成感につなげるための「振り返り」

- ⑤まとめをする中で、新たな疑問をもつ。
- ⑥学んだことを一般化する。
- ⑦児童が自分の成長に気付く。

このような振り返りを授業者が把握し、意図的に児童同士の対話に取り入れさせることにより、対話が活性化され、深い学びへとつながっていく。

5 研究内容

○めざす子供像

<低学年>

主体的に問題解決に取り組み、自分の気付きや考えを表現することができる子

<中学年>

主体的に問題解決に取り組み、対話を通して互いの考えのよさに気付くことができる子

<高学年>

主体的に問題解決に取り組み、対話を通して互いの考えを磨き合い、高め合うことができる子

段階	めざす子供像	具体的な姿	振り返りに現れる姿
低学年	主体的に問題解決に取り組み、自分の気付きや考えを表現することができる子	話したり、書いたりすることで自分の気付きや考えを表現する姿	・なぜ～なのだろう。 ・もっと～したい
中学年	主体的に問題解決に取り組み、仲間との対話を通して互いの考えのよさに気付くことができる子	自分の考えをもった上で、他者の考えがあることを認めることができる姿	・自分とは違う考えがあることが分かった。 ・～すればいい。
高学年	主体的に問題解決に取り組み、仲間との対話を通して考えを磨き合い、深め合うことができる子	他者の考えを踏まえて、自分の考えと比較し、考えを深めることができる姿	・～自分とは違う考えを聞いて、考えが広がった。 ・やはり自分の考えはあっていると思った。